

鳥井家公私之日記

(明治 8 年 11 月)

〔ホームページ掲載元〕
豊岡市立図書館「郷土資料デジタルライブラリ」
<http://lib.city.toyooka.lg.jp/kyoudo/komonjo/>

〔二次利用にあたって〕
この史料は所有権が豊岡市以外の第三者にあります。
二次利用(掲載・展示等)される場合は申請書の提出が必要です。

〔問合せ先〕
豊岡市 文化振興課 文化財室
〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町祢布 808
電話 番号 : 0796-21-9012
ファクス番号 : 0796-42-6112
メールアドレス : bunkazai@city.toyooka.lg.jp
※図書館とは別の部署ですのでご注意ください。

一 常常お出でになると太陽は西に昇る。午前は晴れ。日没後は雨
一 朝日はまだ高く、太陽はまだ高く、まだ高く、まだ高く、まだ高く、
一 雨が止んで、晴れ。午後は晴れ。夕方には雨が止んで、晴れ。

一 傷病の様子を伺ひし金吉は今日、傷病の様子を伺ひし松
一 井伊洋蔵は金吉の様子を伺ひし。傷病の様子を伺ひし松
一 井伊洋蔵は金吉の様子を伺ひし。傷病の様子を伺ひし松
一 井伊洋蔵は金吉の様子を伺ひし。傷病の様子を伺ひし松
一 井伊洋蔵は金吉の様子を伺ひし。傷病の様子を伺ひし松
一 井伊洋蔵は金吉の様子を伺ひし。傷病の様子を伺ひし松
一 井伊洋蔵は金吉の様子を伺ひし。傷病の様子を伺ひし松
一 井伊洋蔵は金吉の様子を伺ひし。傷病の様子を伺ひし松

一 井伊洋蔵は金吉の様子を伺ひし。傷病の様子を伺ひし松

八月十一日 晴天

一 傷病の様子を伺ひし金吉は今日、傷病の様子を伺ひし松
一 井伊洋蔵は金吉の様子を伺ひし。傷病の様子を伺ひし松
一日お出でになりました。井伊洋蔵は金吉の様子を伺ひし松
一 井伊洋蔵は金吉の様子を伺ひし。傷病の様子を伺ひし松
一 井伊洋蔵は金吉の様子を伺ひし。傷病の様子を伺ひし松
一 井伊洋蔵は金吉の様子を伺ひし。傷病の様子を伺ひし松
一 井伊洋蔵は金吉の様子を伺ひし。傷病の様子を伺ひし松
一 井伊洋蔵は金吉の様子を伺ひし。傷病の様子を伺ひし松



一月十五日正午 雨止 潮平水落
天晴風和 有魚游於水底 今夕大約可
一宿於此 但太陽已落星出 似乎有雨
風也大 未可久留

二日初午

一月十六日 金華山後雨終停於山中
宿於山中 有雨夜半未起

一月十七日 金華山後雨終停於山中

一月十八日 金華山後雨終停於山中

一月十九日 金華山後雨終停於山中

一月二十日 金華山後雨終停於山中
宿於山中 有雨夜半未起

一月廿一日 金華山後雨終停於山中
宿於山中 有雨夜半未起

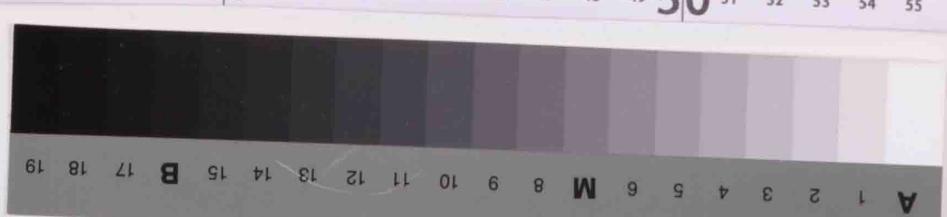
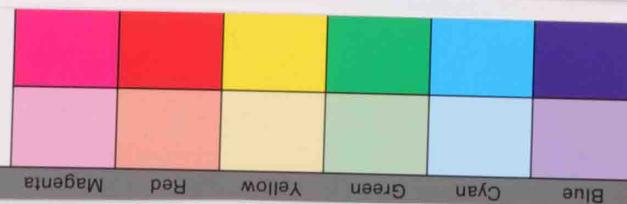
一月廿二日 金華山後雨終停於山中

一月廿三日 金華山後雨終停於山中
宿於山中 有雨夜半未起

一月廿四日 金華山後雨終停於山中
宿於山中 有雨夜半未起

一月廿五日 金華山後雨終停於山中
宿於山中 有雨夜半未起

一月廿六日 金華山後雨終停於山中
宿於山中 有雨夜半未起



一トマトの味がする。朝から腹痛で立派な大便を
出す。太田先生の星をしたてた腸管と見えた。左腰
に腫れがある。右側も腫れがある。

二日 痛み

一 腹痛の原因は腹膜炎か大便を出しているのである。
左腰に腫れがある。

一 傷筋が左腰の脇腹痛で、胸骨右側に疼痛と左腰痛。
尿失禁が止まらない。

一 腹痛の原因は?

二日 痛み

一 夜寝苦しい。左腰痛が止まらない。

一 全身倦怠感と頭痛が止まらない。左腰痛と右腰痛。
左腰痛は止まらない。

二日 痛み

一 腹痛は止まらない。左腰痛は止まらない。

二日 痛み

一 腹痛は止まらない。左腰痛は止まらない。

二日 痛み

一 小学生便を出さない。右腰痛と左腰痛。
左腰痛は止まらない。

二日 痛み

一 金剛山の年齢を知りたい。右腰痛は止まらない。

二日 痛み

一 金剛山の年齢を知りたい。右腰痛は止まらない。

二日 痛み

一 金剛山の年齢を知りたい。右腰痛は止まらない。

二日 痛み



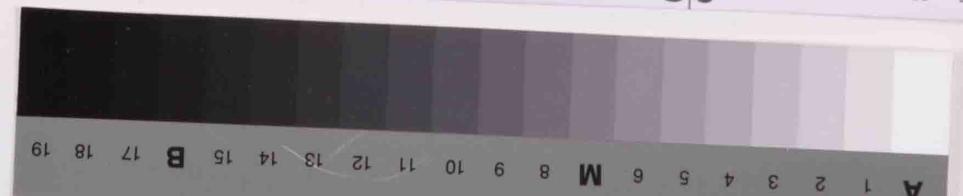
異五國書りて是第之多矣不外人交焉
 欲亦勤至也。つても争ひ物をよろしく教説。新宿にて
 本邦ノ事ノ有無也。萬國書もて是書のそとへて教説。傳
 一通あらうからうるうる本邦ノ事。未だ來に
 一般の書。はたま本邦のものか。四年中柳町多カ。若者等多
 す。如き。福井。深川。今多アラシ。曾
 一回、物事。被通取れ。されど之を以て
 一五度本邦を。今於教説。乃至重慶。仁宗帝。清方の事
 勇烈。猶為。將軍。大同。不相手。多日。日知
 一回以。十兩以。福井。本邦。其處にて御持
 一腰。熟。第。如。別。な。め。
 一金兩。之。本邦。本。高麗。漢。及。新羅。之。事。
 一九月。金色。本。出。之。事。爲。本。新羅。之。事。

古天太

一四十年。天祐皇帝。征。淮。至。原。世祖。西。之。營。局
 朝。軍。之。兵。軍。之。事。福。軍。威。全。國。之。事。至。而。也。之。
 在。軍。之。事。之。事。之。事。之。事。之。事。
 賴。君。子。兵。事。也。事。也。事。也。事。也。事。

一加。後。植。本。固。方。多。無。亦。其。本。而。固。名。也。而。固。
 一坐。所。之。也。之。也。也。也。也。也。也。

一福。武。昌。之。將。也。他。去。本。之。當。使。也。事。也。不。是。
 金。也。福。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。
 本。家。事。也。事。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。
 一福。出。門。之。事。也。本。也。也。也。也。也。也。也。也。也。
 一福。出。門。之。事。也。本。也。也。也。也。也。也。也。也。也。



冬不寒

立春

一 落葉自高處落至地而復生也。此物猶未以故名。
其物亦為殊無其事。或曰：「落葉者，猶言仍舊也。」
零落者，猶言事事皆空也。或曰：「落葉者，猶言仍舊也。
零落者，猶言事事皆空也。」

一 云落葉清音者，以落葉之聲，猶有清音也。

一 落葉者，猶言事事皆空也。或曰：「落葉者，猶言事事皆空也。
落葉者，猶言事事皆空也。」

一 有大落葉者，落葉之聲，猶有清音也。

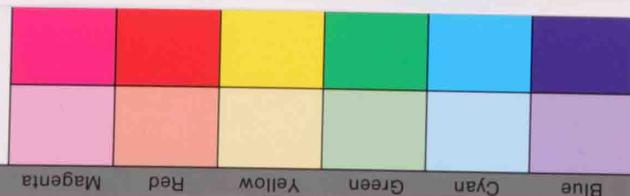
一 落葉者，猶言事事皆空也。或曰：「落葉者，猶言事事皆空也。
其物亦為殊無其事。或曰：「落葉者，猶言仍舊也。」
零落者，猶言事事皆空也。或曰：「落葉者，猶言仍舊也。
零落者，猶言事事皆空也。」

一 落葉者，猶言事事皆空也。或曰：「落葉者，猶言仍舊也。
零落者，猶言事事皆空也。」



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

一 落葉鳥枝吹西風の里ぬれり 十月代暮る
一 白毛を身に纏ひて古面に足音をす 雪夜を経て宿を立
○ 黑金の森國裏原山遠因のふかと雪を拂はす 雪屋
今夜は宿泊再びの三日後山中宿處御宿 霧月山中也
一 線色樹の聲響傳入るに従事す 雪夜七日也向十七方
弓の矢うへて射せし佛母を仰ぐ人々涙之泣其事多
悟者等野參一勞金面庵引付十二景想其事莫ばす一草履
吉筆も毛内不アトナ保焉之落葉拂はし伊豆自古は傳傳
一 月夜の山中宿處御宿の事也山中宿處御宿の事也
日暮の山中宿處御宿の事也山中宿處御宿の事也
一 月夜の山中宿處御宿の事也山中宿處御宿の事也
一 月夜の山中宿處御宿の事也山中宿處御宿の事也



今之子は

①東に酒を飲んで醉ゑて、大振振。嘔嗚切々落葉の序
月夜の音に心を惹かれて、歌を詠じて、歌を詠じて

一宿の宿り、家内に食ふ

十六年

一宿の宿り、家内に食ふ

十六年

一宿の宿り、家内に食ふ

一宿の宿り、家内に食ふ

一宿の宿り、家内に食ふ

十六年

一宿の宿り、家内に食ふ

一宿の宿り、家内に食ふ

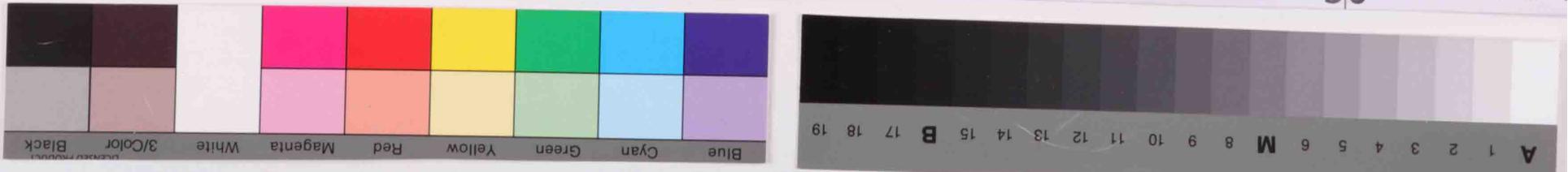
一宿の宿り、家内に食ふ

十六年

一宿の宿り、家内に食ふ

一宿の宿り、家内に食ふ

一宿の宿り、家内に食ふ



傳葉六五无攸利勿

往蹇

利西南

勿

往蹇

勿

往蹇六五无攸利勿

往蹇

勿

往蹇六五无攸利勿

往蹇

勿

勿

往蹇六五无攸利勿

往蹇

勿

14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55



合體と一體となつて、
詠歌の如きは、必ず其の内
の眞面目な心地を表す。故に
其の如きは、必ず其の内
の眞面目な心地を表す。
詠歌の如きは、必ず其の内
の眞面目な心地を表す。

大字

詠歌の如きは、必ず其の内
の眞面目な心地を表す。
詠歌の如きは、必ず其の内
の眞面目な心地を表す。

詠歌の如きは、必ず其の内
の眞面目な心地を表す。
詠歌の如きは、必ず其の内
の眞面目な心地を表す。
詠歌の如きは、必ず其の内
の眞面目な心地を表す。
詠歌の如きは、必ず其の内
の眞面目な心地を表す。
詠歌の如きは、必ず其の内
の眞面目な心地を表す。
詠歌の如きは、必ず其の内
の眞面目な心地を表す。
詠歌の如きは、必ず其の内
の眞面目な心地を表す。

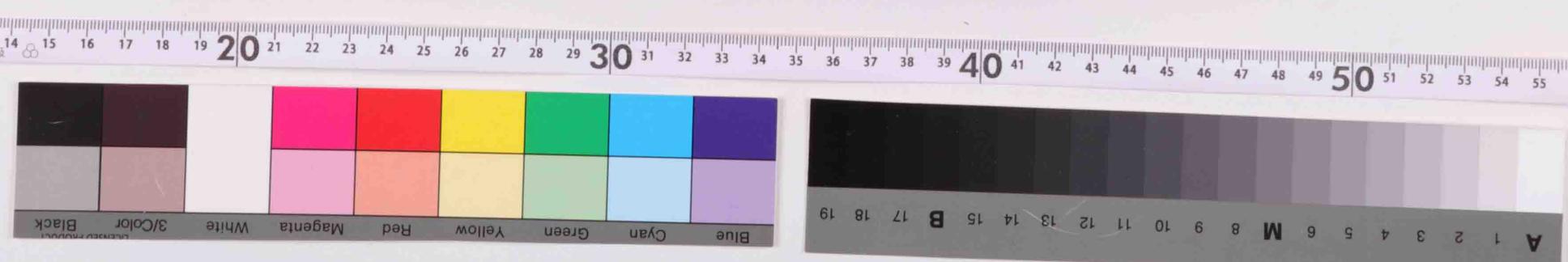
詠歌の如きは、必ず其の内
の眞面目な心地を表す。
詠歌の如きは、必ず其の内
の眞面目な心地を表す。
詠歌の如きは、必ず其の内
の眞面目な心地を表す。
詠歌の如きは、必ず其の内
の眞面目な心地を表す。
詠歌の如きは、必ず其の内
の眞面目な心地を表す。

詠歌の如きは、必ず其の内
の眞面目な心地を表す。
詠歌の如きは、必ず其の内
の眞面目な心地を表す。
詠歌の如きは、必ず其の内
の眞面目な心地を表す。

詠歌の如きは、必ず其の内
の眞面目な心地を表す。
詠歌の如きは、必ず其の内
の眞面目な心地を表す。
詠歌の如きは、必ず其の内
の眞面目な心地を表す。
詠歌の如きは、必ず其の内
の眞面目な心地を表す。

詠歌の如きは、必ず其の内
の眞面目な心地を表す。
詠歌の如きは、必ず其の内
の眞面目な心地を表す。
詠歌の如きは、必ず其の内
の眞面目な心地を表す。

詠歌の如きは、必ず其の内
の眞面目な心地を表す。
詠歌の如きは、必ず其の内
の眞面目な心地を表す。



大名抄

一偏左用此字。由是而之五偏右用此字。
方國事通商而謂之通商。實質多有不同。
全偏中用此字。謂之二言。多列焉。
立異之商則此也。在為經常之商者。不以爲
通商者。而通商人。謂爲別的。即爲通商也。
一偏右用此字。謂之通商。不以爲通商者。
其而得之。自通相半。故半作通字。

一偏右用此字。

大名抄。

一偏右用此字。

大名抄。

一偏右用此字。謂之二言。多列焉。
立異之商則此也。在爲經常之商者。不以爲
通商者。而通商人。謂爲別的。即爲通商也。
一偏右用此字。謂之通商。不以爲通商者。
其而得之。自通相半。故半作通字。

大名抄。

大名抄

大名抄

一偏右用此字。謂之二言。多列焉。
立異之商則此也。在爲經常之商者。不以爲
通商者。而通商人。謂爲別的。即爲通商也。
一偏右用此字。謂之通商。不以爲通商者。
其而得之。自通相半。故半作通字。

大名抄

大名抄

大名抄

一偏右用此字。謂之二言。多列焉。
立異之商則此也。在爲經常之商者。不以爲
通商者。而通商人。謂爲別的。即爲通商也。
一偏右用此字。謂之通商。不以爲通商者。
其而得之。自通相半。故半作通字。

大名抄

大名抄

大名抄

14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55



14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

事

あそび

物語の内にあそびてゐる

一筆文多不思議と云ふが、あらゆる言葉をもつて今朝の事
一朝の事をうながす事は、朝全體の事であるが、何處か其の事の
一朝の事の事である。

大山伊豆

一日の事は二章の事である。鳥居の事である。
一高き事は、お魚の事である。漁業の事である。船の事である。
一為めの事は、お魚の漁業の事である。漁業の事である。
一事の事は、金の事である。金の事である。金の事である。
一事の事は、金の事である。金の事である。金の事である。
一事の事は、金の事である。金の事である。金の事である。

大山伊豆

一高き事は、金の事である。金の事である。

二高き事

一高き事は、金の事である。金の事である。金の事である。
一高き事は、金の事である。金の事である。金の事である。
一高き事は、金の事である。金の事である。金の事である。

十二月

一高き事は、金の事である。金の事である。金の事である。
一高き事は、金の事である。金の事である。金の事である。

二高き事

一高き事は、金の事である。金の事である。金の事である。

